



野田中だより

入間市立野田中学校学校だより No.1

令和4年4月12日発行



前任の正高校長が定年退職を迎え、4月からお世話になります倉根勝彦と申します。微力ですが本校のために全力を尽くしてまいり所存です。よろしく願いいたします。

さて、令和4年度は、新入生121名を迎え、生徒343名でスタートを切りました。それぞれの生徒・職員が、新たな決意を胸に秘め、本年度の野田中学校づくりが始まりました。本年度も、保護者の皆さま・地域の方々と力を合わせ、全力で学校経営にあたり、「地域と共に歩む野田中学校」をさらに推進して参ります。

また、本年度は、「感謝と夢」をスローガンに、お互いの良さを見つけ、認め合うとともに、将来を見据えて取り組んでまいります。

結びになりますが、保護者並びに地域の皆さまにおかれましては、本年度も引き続き本校の教育活動に対し、ご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新入生を迎えて

入学式式辞より

新入生121名の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を私たち教職員、また、在校生ともに心待ちにしていました。ぜひ、この3年間で大いに学び、自立に向けて成長してもらいたいと思います。

私からは、これからの学校生活を有意義に過ごしてもらうために一つ話をします。それは「みんなが協調し安心できる集団をつくろう」ということです。皆さんは小学校でも学級や学年を、安心できる集団にする努力をしてきたと思います。人間は一人でも努力すれば成長することができます。しかし、皆さんの集団が安心できる集団になったとき、一人のときよりもさらに大きく成長できます。では、どのような集団が安心できる集団なのでしょう？

それは、たとえ誰かが失敗しても許すことができる集団です。なぜなら、お互いの失敗を認め合えることができれば、みんなが安心して生活できるからです。学校は学習の場です。学習する上で失敗はつきものです。失敗を繰り返しながら皆さんは成長していくのです。しかし、仮に失敗が許されない集団だとしたら、学校生活はとても息苦しいものになってしまうでしょう。

よく成功の反対は失敗と言いますが、実は成功の反対は「何もしないこと」です。失敗をするということは、その失敗を修正すれば、次は成功に結び付ける可能性がでてきます。しかし、何もしなければ、永遠に成功することはありません。仮に失敗を許すことができる集団であったら、自分を大いに成長させることができます。

アメリカの大統領セオドア・ルーズベルトは、次のように言っています。「ミスをしな人間は、何もしない人間だけだ」と。アイルランドの小説家ブラム・ストーカーは「我々は失敗から学んできた。成功からではない」とも言っています。また、日本のホンダ自動車創業者本田宗一郎は「私のやった仕事で本当に成功したのは、全体のわずか1%に過ぎない。99%は失敗の連続であった」と言っています。みんなで協調し安心できる集団をつくり、お互いの失敗を認め合い、修正しチャレンジを重ねることで、大きく成長につなげていきましょう。

この4月から成人年齢が18歳に引き下げられました。18歳は、あっという間にやってきます。大人になれば責任が伴い、大変なことだと考える人がいるかもしれませんが、私はそうは思いません。この野田中学校でたくさんチャレンジし、たくさん失敗・修正し、多くの成功体験を積みながら、大人になる準備を進めてください。そうすれば18歳になったとき、それぞれの夢に近づける、そんな素敵な大人になっているはずですよ。

保護者の皆様に一言お祝いを申し上げます。お子様のご入学、おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。今日から3年間、学校とご家庭の連携を図りながら、お子さんの成長を見届けていきます。今回の入学式に際しましては、各家庭の参加に制限をかせさせていただきましたが、ご協力いただき感謝申し上げます。

今しばらくコロナ禍が続きます。学校の教育活動も思うようにできないことも多いかもしれませんが、しかし、野田中学校教職員一同、子どもたちの力を最大限伸ばしていく学校として取り組んでいく所存です。ご来賓の方々、そして保護者の皆様に、本校の教育活動に対する深いご理解と温かいご支援を心からお願い申し上げます。

